C コマンド

この章では、C で始まる Cisco NX-OS TrustSec コマンドについて説明します。

clear cts policy

Cisco TrustSec セキュリティ グループ アクセス コントロール リスト（SGACL）ポリシーをクリアするには、**clear cts policy** コマンドを使用します。

clear cts policy {**all** | **peer** *device-id* | **sgt** *sgt-value*}

構文の説明

all	ローカル デバイス上のすべての Cisco TrustSec SGACL をクリアします。
peer *device-id*	ローカル デバイス上のピア デバイスの Cisco TrustSec SGACL ポリシーをクリアします。
sgt *sgt-value*	ローカル デバイス上のセキュリティ グループ タグ（SGT）に対する Cisco TrustSec SGACL ポリシーをクリアします。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコマンド モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

SGACL ポリシーをクリアすると、動作は、インターフェイスがフラップするまで有効になりません。インターフェイスがスタティック SGT のインターフェイスである場合、SGT 値はフラッピングのあとにゼロ（0）に設定されます。この操作を取り消すには、次のコマンドを使用します。

```
switch(config-if-cts-manual)# no policy static
switch(config-if-cts-manual)# policy static sgt sgt-value
switch(config-if-cts-manual)#
```

インターフェイスがダイナミック SGT のインターフェイスである場合、SGT はフラッピングのあとに、RADIUS サーバから再ダウンロードされます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、デバイスのすべての Cisco TrustSec SGACL ポリシーをクリアする例を示します。

```
switch# clear cts policy all
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cts role-based sgt	SGACL に SGT をマッピングします。
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

コマンド	説明
feature dot1x	802.1X 機能をイネーブルにします。
policy	インターフェイスに認証ポリシーを設定します。
show cts role-based policy	Cisco TrustSec の SGACL ポリシー情報を表示します。

clear cts role-based counters

ロールベース アクセス コントロール リスト（RBACL）統計情報をすべてのカウンタが 0 にリセットされるようにクリアするには、**clear cts role-based counters** コマンドを使用します。

clear cts role-based counters

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

任意のコンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、RBACL 統計情報をクリアする例を示します。

```
switch# clear cts role-based counters
switch#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cts role-based counters enable	RBACL 統計情報をイネーブルにします。
show cts role-based counters	RBACL 統計情報の設定ステータスを表示し、すべての RBACL ポリシーの統計情報を一覧表示します。

cts device-id

Cisco TrustSec デバイス ID を設定するには、**cts device-id** コマンドを使用します。

cts device-id *device-id* **password** [**7**] *password*

構文の説明

device-id	Cisco TrustSec デバイス ID 名。名前には英数字を使用します。大文字と小文字が区別され、最大長は 32 文字です。
password	EAP-FAST 処理中に使用するパスワードを（クリア テキストまたは暗号化で）指定します。
7	（任意）パスワードが暗号化されたテキストであること指定します。
password	Cisco TrustSec デバイスのパスワード。最大で 32 文字の英数字を使用でき、大文字と小文字が区別されます。

コマンド デフォルト

Cisco TrustSec デバイス ID なし
クリア テキスト パスワード

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

Cisco TrustSec デバイス ID 名は固有でなければなりません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Cisco TrustSec デバイス ID を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
swtich(config)# cts device-id DeviceA password Cisco321
swtich(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts credentials	Cisco TrustSec クレデンシャル情報を表示します。

cts manual

インターフェイスの Cisco TrustSec 手動設定を開始するには、**cts manual** コマンドを使用します。手動設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts manual

no cts manual

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドを使用したあと、設定を有効にするには、**shutdown** と **no shutdown** コマンド シーケンスを使用することによってインターフェイスをイネーブルおよびディセーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、インターフェイスの Cisco TrustSec 手動コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/4
switch(config-if)# cts manual
switch(config-if-cts-manual)#
```

次に、インターフェイスから Cisco TrustSec 手動設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/4
switch(config-if)# no cts manual
switch(config-if)# shutdown
switch(config-if)# no shutdown
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts interface	インターフェイスの Cisco TrustSec 設定情報を表示します。

cts role-based access-list

Cisco TrustSec セキュリティ グループ アクセス コントロール リスト（SGACL）を作成または指定して、ロールベース アクセス コントロール リスト コンフィギュレーション モードを開始するには、**cts role-based access-list** コマンドを使用します。SGACL を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts role-based access-list *list-name*

no cts role-based access-list *list-name*

構文の説明

list-name	SGACL の名前。名前には英数字を使用します。大文字と小文字が区別され、最大長は 32 文字です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

SGACL を削除すると、アクセス リストは、システム内の任意の SGT-DGT ペアから参照できなくなります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Cisco TrustSec SGACL を作成して、ロールベース アクセス リスト コンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts role-based access-list MySGACL
switch(config-rbacl)#
```

次に、Cisco TrustSec SGACL を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts role-based access-list MySGACL
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts role-based access-list	Cisco TrustSec SGACL の設定を表示します。

cts role-based counters enable

ロールベース アクセス コントロール リスト（RBACL）統計情報をイネーブルにするには、**cts role-based counters enable** コマンドを使用します。RBACL 統計情報をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts role-based counters enable

no cts role-based counters enable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドを使用するには、VLAN での RBACL ポリシーの強制をイネーブルにする必要があります。

RBACL 統計情報をイネーブルにするには、ハードウェアのエントリが各ポリシーに 1 つずつ必要です。ハードウェアに十分な領域がない場合、エラー メッセージが表示され、統計情報をイネーブルにできません。

RBACL 統計情報は、ISSU 時またはアクセス コントロール エントリを RBACL に追加するか削除すると、失われます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、RBACL 統計情報をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts role-based counters enable
Note: Clearing previously collected counters...
switch(config)#
```

次に、RBACL 統計情報をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts role-based counters enable
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
clear cts role-based counters	すべてのカウンタが 0 にリセットされるように、RBACL 統計情報をクリアします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts role-based counters	RBACL 統計情報の設定ステータスを表示し、すべての RBACL ポリシーの統計情報を一覧表示します。

cts role-based enforcement

VLAN のロールベース アクセス コントロール リスト（RBACL）の強制をイネーブルにするには、**cts role-based enforcement** コマンドを使用します。VLAN での RBACL の強制をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts role-based enforcement

no cts role-based enforcement

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

VLAN コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

RBACL の強制は VLAN 単位でイネーブルになります。RBACL の強制は、ルーテッド VLAN またはインターフェイスでイネーブルにできません。RBACL の強制の変更を有効にするには、VLAN コンフィギュレーション モードを終了する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、VLAN での RBACL の強制をイネーブルにし、ステータスを確認する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# cts role-based enforcement
switch(config-vlan)# exit
switch(config)# show cts role-based enable
vlan:102
switch(config)#
```

次に、VLAN での RBACL の強制をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# vlan 5
switch(config-vlan)# no cts role-based enforcement
switch(config-vlan)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts role-based enable	RBACL がイネーブルになっている VLAN を表示します。

cts role-based sgt

セキュリティ グループ アクセス コントロール リスト（SGACL）と Cisco TrustSec Security Group Tag（SGT; セキュリティ グループ タグ）のマッピングを手動で設定するには、**cts role-based sgt** コマンドを使用します。SGACL と SGT のマッピングを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts role-based sgt {*sgt-value* | **any** | **unknown**} **dgt** {*dgt-value* | **any** | **unknown**} **access-list** *list-name*

no cts role-based sgt {*sgt-value* | **any** | **unknown**} **dgt** {*dgt-value* | **any** | **unknown**}

構文の説明

sgt-value	送信元 SGT の値。範囲は 0 ～ 65519 です。
any	SGT または宛先 SGT を指定します。
unknown	未知の SGT を指定します。
dgt	宛先 SGT を指定します。
dgt-value	宛先 SGT の値。範囲は 0 ～ 65519 です。
access-list *list-name*	SGACL の名前を指定します。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

SGT のマッピングを設定する前に SGACL を設定する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SGACL の SGT マッピングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts role-based sgt 3 dgt 10 access-list MySGACL
switch(config)#
```

次に、宛先 SGT への SGT マッピングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts role-based sgt any dgt any access-list MySGACL
switch(config)#
```

次に、SGACL の SGT マッピングを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts role-based sgt 3 dgt 10
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts role-based policy	SGACL の Cisco TrustSec SGT マッピングを表示します。

cts role-based sgt-map

IP アドレスと Cisco TrustSec セキュリティ グループ タグ（SGT）のマッピングを手動で設定するには、**cts role-based sgt-map** コマンドを使用します。SGT を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts role-based sgt-map *ipv4-address sgt-value*

no cts role-based sgt-map *ipv4-address*

構文の説明

ipv4-address	IPv4 アドレス。形式は、*A.B.C.D* です。
sgt-value	SGT 値。指定できる範囲は 1 ～ 65519 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード
VLAN コンフィギュレーション モード
VRF コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

Cisco TrustSec では、IPv4 アドレッシングだけを使用できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、Cisco TrustSec SGT のマッピングを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts role-based sgt-map 10.10.1.1 3
switch(config)#
```

次に、Cisco TrustSec SGT のマッピングを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts role-based sgt-map 10.10.1.1
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。

コマンド	説明
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts role-based sgt-map	Cisco TrustSec SGT のマッピングを表示します。

cts sgt

Cisco TrustSec セキュリティ グループ タグ（SGT）を設定するには、**cts sgt** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts sgt *tag*

no cts sgt

構文の説明

tag	**0x***hhhh* 形式の 16 進値であるデバイスのローカル SGT。指定できる範囲は 0x2 ～ 0xffef です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、デバイスの Cisco TrustSec SGT を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts sgt 0x3
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts environment-data	Cisco TrustSec 環境データを表示します。

cts sxp connection peer

Cisco TrustSec の SGT Exchange Protocol（SXP）ピア接続を設定するには、**cts sxp connection peer** コマンドを使用します。SXP 接続を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts sxp connection peer *peer-ipv4-addr* [**source** *src-ipv4-addr*] **password** {**default** | **none** | **required** {*password*| **7** *encrypted-password*}} **mode listener** [**vrf** *vrf-name*]

no cts sxp connection peer *peer-ipv4-addr* [**source** *src-ipv4-addr*] **password** {**default** | **none** | **required** {*password* | **7** *encrypted-password*}} **mode listener** [**vrf** *vrf-name*]

構文の説明

peer-ipv4-addr	ピア デバイスの IPv4 アドレス
source *src-ipv4-addr*	（任意）送信元デバイスの IPv4 アドレスを指定します。
password	SXP 認証に使用するパスワード オプションを指定します。
default	SXP がピア接続のデフォルト SXP パスワードを使用するように指定します。
none	SXP がパスワードを使用しないように指定します。
required	SXP がこのピア接続で使用する必要があるパスワードを指定します。
password	テキスト パスワードをクリアします。パスワードには英数字を使用します。大文字と小文字が区別され、最大長は 32 文字です。
7 *encrypted-password*	暗号化パスワードを指定します。最大長は 32 文字です。
mode	ピア デバイスのモードを指定します。
listener	ピアがリスナーとなるように指定します。
vrf *vrf-name*	（任意）ピアの仮想ルーティングおよび転送（VRF）インスタンスを指定します。この VRF の名前には最大 32 文字までの英数字を指定できます。

コマンド デフォルト

デバイスに設定されたデフォルト SXP パスワード
デバイスに設定されたデフォルト SXP 送信元 IPv4 アドレス
デフォルト VRF

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

Cisco TrustSec では、IPv4 アドレッシングだけを使用できます。

送信元 IPv4 アドレスを指定しない場合は、**cts sxp default source-ip** コマンドを使用してデフォルト SXP 送信元 IPv4 アドレスを設定する必要があります。

デフォルトをパスワード モードで指定する場合は、**cts sxp default password** コマンドを使用してデフォルト SXP パスワードを設定する必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SXP ピア接続を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts sxp connection peer 10.10.1.1 source 10.10.2.2 password default mode listener
switch(config)#
```

次に、SXP ピア接続を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts sxp connection peer 10.10.1.1
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
cts sxp default password	デバイスのデフォルト SXP パスワードを設定します。
cts sxp default source-ip	デバイスのデフォルト SXP 送信元 IPv4 アドレスを設定します。
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts sxp connection	Cisco TrustSec SXP ピア接続情報を表示します。

cts sxp default password

デバイスのデフォルト SGT Exchange Protocol（SXP）パスワードを設定するには、**cts sxp default password** コマンドを使用します。デフォルトを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts sxp default password {*password* | **7** *encrypted-password*}

no cts sxp default password

構文の説明

password	テキスト パスワードをクリアします。パスワードには英数字を使用します。大文字と小文字が区別され、最大長は 32 文字です。
7 *encrypted-password*	暗号化パスワードを指定します。最大長は 32 文字です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、デバイスのデフォルト SXP パスワードを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts sxp default password Cisco654
switch(config)#
```

次に、デフォルト SXP パスワードを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts sxp default password
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts sxp	Cisco TrustSec SXP 設定情報を表示します。

cts sxp default source-ip

デバイスのデフォルト SGT Exchange Protocol（SXP）送信元 IPv4 アドレスを設定するには、**cts sxp default source-ip** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts sxp default source-ip *ipv4-address*

no cts sxp default source-ip

構文の説明

ipv4-address	デバイスのデフォルト SXP IPv4 アドレス

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

Cisco TrustSec では、IPv4 アドレッシングだけを使用できます。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、デバイスのデフォルト SXP 送信元 IP アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts sxp default source-ip 10.10.3.3
switch(config)#
```

次に、デフォルト SXP 送信元 IP アドレスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts sxp default source-ip
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts sxp	Cisco TrustSec SXP 設定情報を表示します。

cts sxp enable

デバイス上の SGT Exchange Protocol（SXP）ピアをイネーブルにするには、**cts sxp enable** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts sxp enable

no cts sxp enable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SXP をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts sxp enable
switch(config)#
```

次に、SXP をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts sxp enable
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts sxp	Cisco TrustSec SXP 設定情報を表示します。

cts sxp reconcile-period

SGT Exchange Protocol（SXP）復帰期間タイマーを設定するには、**cts sxp reconcile-period** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts sxp reconcile-period *seconds*

no cts sxp reconcile-period

構文の説明

seconds	秒数。範囲は 0 ～ 64000 です。

コマンド デフォルト

120 秒（2 分）

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

ピアが SXP 接続を終了すると、内部ホールドダウン タイマーが開始されます。内部ホールドダウン タイマーが終了する前にピアが再接続すると、SXP 復帰期間タイマーが開始されます。

（注） SXP 復帰期間を 0 秒に設定すると、タイマーがディセーブルになります。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SXP 復帰期間を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts sxp reconcile-period 120
switch(config)#
```

次に、SXP 復帰期間をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts sxp reconcile-period
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts sxp connection	Cisco TrustSec SXP 設定情報を表示します。

cts sxp retry-period

SGT Exchange Protocol（SXP）リトライ期間タイマーを設定するには、**cts sxp retry-period** コマンドを使用します。デフォルト設定に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

cts sxp retry-period *seconds*

no cts sxp retry-period

構文の説明

seconds	秒数。範囲は 0 ～ 64000 です。

コマンド デフォルト

60 秒（1 分）

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドを使用するには、まず **feature dot1x** コマンドを使用して 802.1X 機能をイネーブルにしてから、**feature cts** コマンドを使用して Cisco TrustSec 機能をイネーブルにする必要があります。

SXP リトライ期間によって、Cisco NX-OS ソフトウェアが SXP 接続を再試行する頻度が決まります。SXP 接続が正常に確立されなかった場合、Cisco NX-OS ソフトウェアは SXP リトライ期間タイマーの終了後に、新たな接続の確立を試行します。

（注） SXP リトライ期間を 0 秒に設定すると、タイマーがディセーブルになり、再試行は実行されません。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、SXP リトライ期間を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# cts sxp retry-period 120
switch(config)#
```

次に、SXP リトライ期間をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no cts sxp retry-period
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
feature cts	Cisco TrustSec 機能をイネーブルにします。
feature dot1x	スイッチ上で 802.1X 機能をイネーブルにします。
show cts sxp connection	Cisco TrustSec SXP ピア接続情報を表示します。